

平べ、24年度 家庭教育推進事業

生涯学習振興課

【趣旨】 今日的な家庭教育の課題に対応し、子どもたちが「いのち」輝く人間として健やかに成長していくためには、家庭の教育力及び地域の教育的機能の向上が必要である。このため、親に対する家庭教育に関する学習機会等の提供や家庭教育支援者（幼稚園教員、保育士、教員、子育て支援者等）の資質向上のための研修会の実施等、家庭教育支援の充実を図る。

【教育基本法】

○第10条（家庭教育）

【5教振の推進】

○家庭教育への支援充実

【やまがた子育て応援プラン】

○社会全体による子育て支援の推進

家庭の教育力の向上

（家庭教育支援に関わる継続的な取組）

【現状と課題】

- ・ 様々な困難や課題を抱える家庭
- ・ 家庭や地域の教育力の低下

支援者研修の充実

「家庭教育支援フォーラム」の開催

（国補助：国 1/3 県 2/3）

家庭教育支援者等の資質向上のための研修機会を設定し、地域における家庭教育支援体制の充実を図る。 【4箇所】

学習機会の拡充

「家庭教育出前講座」の開催

（国補助：国 1/3 県 2/3）

企業や各種団体等に訪問して、家庭教育に関する講話や相談活動を行う。【20箇所】
（村山6 最上4 置賜5 庄内5）

個別相談への対応

「ふれあいほっとライン」の開設

（報酬職員）

家庭教育や子育てに関わる悩みを、気軽に相談できる家庭教育電話相談を課内に設置。

家庭教育関連リーフレット等の配布

家庭教育や子育てに関する情報等の提供。

県と市町村が連携した家庭教育支援の展開

「やまがた子育て講座」の開催：（国補助：国・県・市町村 各 1/3）

家庭教育に関する諸問題を中心に、子育て等に関する学習機会を広く提供する。【27市町村 182箇所】

（対象） 主に小学生をもつ親 等

（内容） ①親に対する家庭教育に関する学習機会等の提供となる内容

②入学前（就学時健診、一日入学等）の子どもをもつ親に対する内容

③家庭教育に関する個別相談に対応する内容

④父親に対する家庭教育に関する学習機会等の提供となる内容 等

山形県教育委員会

県家庭教育推進協議会

市町村教育委員会

平成24年度 幼児共育推進事業

生涯学習振興課

【趣旨】 山形県では、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上できわめて重要な時期である幼児期の子どもたちを「家庭」「幼稚園・保育所等」「地域」が連携して育て「幼児共育」を提唱し、平成21年4月「山形県幼児共育アクションプログラム」を策定した。
社会全体で幼児期の子育てや家庭教育を支援する仕組みづくりを進めるため、新たに開発した推進プログラム等による『幼児共育』の実践拡大を図り、県民への普及・啓発に努める。

【教育基本法】

- 第11条（幼児期の教育）
- 【5教振の推進】
- 2 人間性の基礎を培う幼児期の教育の充実
- 地域社会全体で取り組む「幼児共育」の推進

- 【やまがた子育て応援プラン】
- 社会全体による子育て支援の推進

「山形県幼児共育アクションプログラム」の策定

（平成21年4月）

《現状と課題をふまえた具体的な行動指針》

【現状と課題】

- ・ 社会の多様化や生活環境の変化（子育てにゆとりがもてない）
- ・ 地域とのつながりの希薄化
- ・ 幼児期からの継続的な子育てや家庭教育支援

県と市町村が連携した幼児共育の推進

I H21～23：アクションプログラムの実践による『幼児共育』の推進

1 幼児共育推進本部の設置

- 三者が連携した幼児共育の実践を推進する方策について協議
- 「幼児共育リーフレット」等の作成・配布
- 「ともいっく広場」の開催（H21：親子参加型のモデル事業）

2 幼児共育ふれあい活動（委託）

- 里仁館及びNPO4団体へ委託
- 人やモノ、自然との関わりを通した幼児共育の実践活動



3 幼児共育合同セミナー

- 幼児共育を支援する指導者等の研修会
- 事業実施団体等による実践事例の提供等

4 ふれあい活動プログラム開発（H22.23）

- 4地区に開発チームを組織
- 幼稚園・保育所で三者が連携したプログラム開発等の実施（地域とのかかわり・自然とのかかわり）

II H24～27：推進プログラム等による『幼児共育』の普及

1 幼児共育普及推進会議の設置（4地区）

- 三者が連携した幼児共育の普及・啓発の推進について協議
- 県幼児共育アドバイザーの委嘱・市町村等への派遣
- 「幼児共育リーフレット」等の作成・配布

2 幼児共育ふれあい広場 18市町村 64箇所

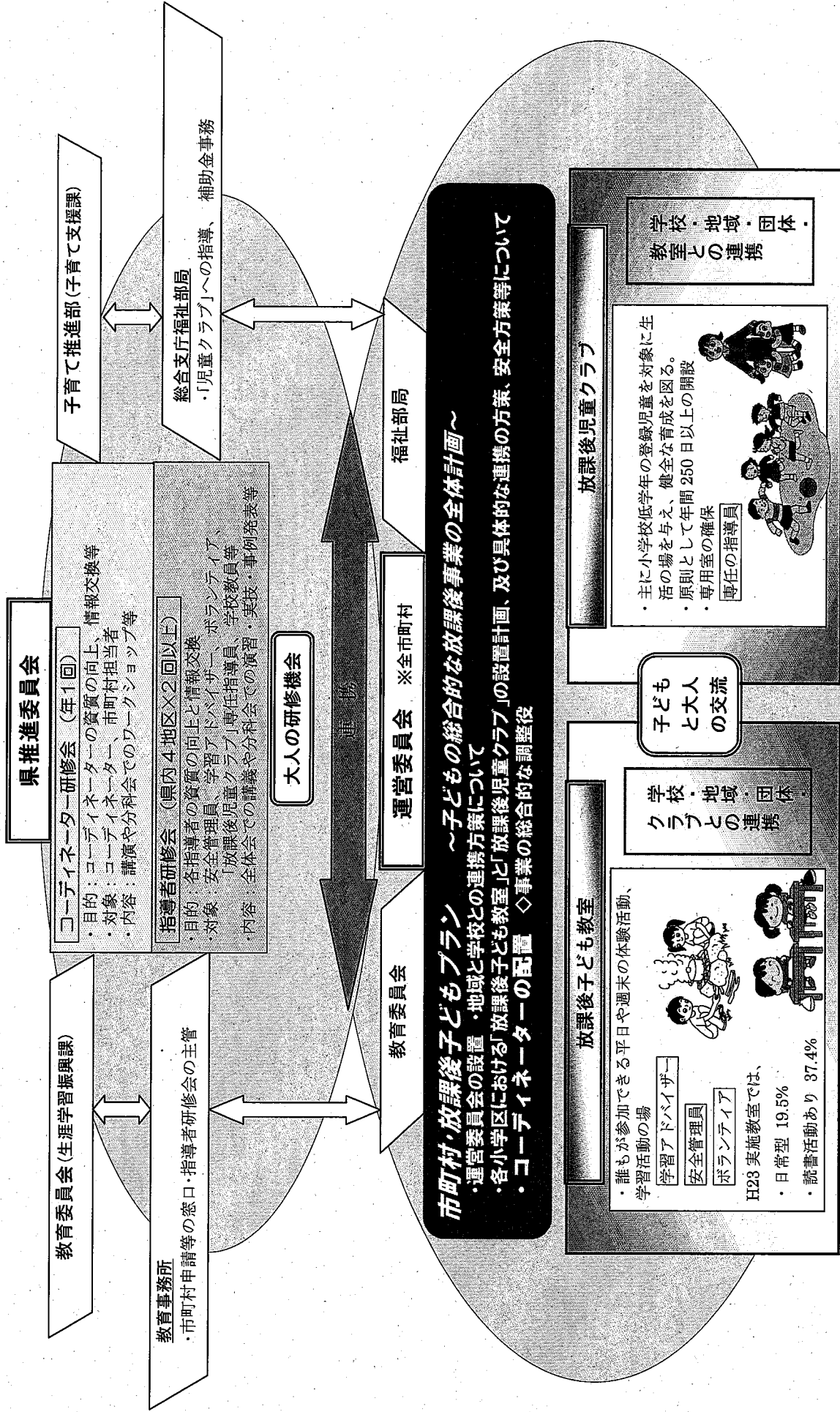
- （国補助：国・県・市町村 各1/3）
- 「子どもとのかかわり方」をまなぶ機会の充実を図るため、親子のふれあいを大切にした様々な体験的な活動（ふれあい活動プログラム）や親への学習機会等の提供を推進
- 内容 ①親子のふれあいを大切にした体験的な活動 ②親子読書や絵本の読み聞かせの大切さを啓発する内容等

3 幼児共育推進プロジェクト（国補助：国1/3 県2/3）

- ①フォーラム・公開講座の開催
- ふれあい活動プログラムによる実践及び普及を図るため、幼児教育及び支援に携わる指導者等への研修機会等を設定し、幼児施設を拠点とする幼児共育の実践活動を推進 【4地区】
- ②幼児共育アドバイザーの市町村（幼児施設等）への派遣
- 幼児共育の実践や推進プログラムの普及のための助言及び支援

「社会全体で幼児期の子育てや家庭教育を支援する仕組みづくり」
幼児共育の全県展開

新規 拡充



多様な体験活動や学習活動の充実
健やかで安全・安心な居場所づくり

地域の中で、子どもと
大人の社会力を育む

地域の大人のかかわり

学校支援地域本部事業

— 地域ぐるみで学校を支援する体制の整備 —

教育庁生涯学習振興課

学校教育活動の充実

子どもと向き合う
時間の拡充

国(文部科学省) 1/3

県(教育委員会) 1/3

学校

- 県運営協議会
- 地域コーディネーター研修会

補助
2/3

支援

学校支援地域本部

※中学校区または単独の小・中学校ごとに設置

本部実施主体
市町村(教育委員会) 1/3

【実行委員会】

◇市町村全体の学校支援の在り方について協議

地域コーディネーター

(教員に代わり、ボランティアの窓口業務などを担当)

【地域教育協議会】

◇学校支援の在り方について協議
校長、教員、PTA関係、地域の方などで構成

調整

既存の評議委員会等の活用も可。また、1市町村1本部の場合は、実行委員会と兼ねる。

学校支援ボランティア

- 【登下校安全確保】 登下校中における通学路の安全指導
- 【読書活動】 読み聞かせ活動や読書環境の整備
- 【学習支援活動】 教科やクラブ活動、総合の時間などでの授業の補助
- 【部活動指導】 部活動の指導の支援
- 【環境整備】 学校の環境整備の支援(例: 掲示物、畑の世話)など

【20年度開始から継続】

河北町(町内全小中)、大江町(左沢小)、東根市(東根中部小・金山町(町内全小中)、最上町(最上中)、真室川町(真室川中) 戸沢村(村内全小中)、高島町(二井宿小・和田小) 川西町(玉庭小中)、長井市(長井北中)、小国町(北部小中)

【21年度開始から継続】

山辺町(町内3中)、舟形町(舟形中)、庄内町(余目一小) 大蔵村(大蔵小)、白鷹町(白鷹西中)

【22年度開始から継続】

庄内町(立川小)

【23年度開始から継続】

寒河江市(市内全小)、西川町(町内全小)、東根市(東根一中) 南陽市(沖郷中・沖郷小・梨郷小)、高島町(高島小・屋代小・亀岡小)、川西町(大塚小・中郡小・吉島小)、小国町(町内全小中)、白鷹町(蚕桑小・鮎貝小)、庄内町(町内全小)

【24年度新規】

新庄市(新庄小・沼田小・日新小・北辰小・萩野小・泉田小・昭和小・本合海小・升形小・新庄中・明倫中・日新中・萩野中・八向中)、川西町(小松小)、長井市(長井南中)

生涯学習で学んだ
成果を生かす場

積極的な
参加

力
地
域
の
向
上
教
育

地域住民



地域に伝わる文化を学ぶ
間(長井北中)



図書室の環境を整えた
読み聞かせの環境を整えた
読書量が増えた
(立川小)



電気製品の分解と組み立て
。気店さんから学ぶ
(左沢小)



ボランティアの方と
。放課後の学習会を始めた
ます
(最上中)

地域資源

掘り起こす ・ 磨く

山形の宝
地域の伝統文化を
知る 守る 活かす

第3次山形県総合発展計画
短期アクションプラン

テーマ

「5 県土環境の保全・創造・活用」
施策

「1 良好な自然環境と共生した環境
地域づくりの促進」

課題

・保存への支援 ・活用への支援

・周知、理解の促進

・人材の育成 (指導者、後継者)

「山形の宝」育成事業

文化財の保存活用活動の推進 (文化財保護推進課)

・文化財所有者 ・地域団体 ・住民など

○ 「山形の宝」普及啓発事業
(情報発信による理解促進)

○ 民俗芸能 “地域の絆” 事業
(民俗芸能の継承と地域づくりの推進)

○ 「山形の宝」育成地域活動支援事業
(地域住民の主体的活動の支援)

○ 「山形の宝」地域のシンボル保存活用事業
(文化財の保存活用支援)

人材育成

子ども伝承活動 ふるさと塾 (通称ふるさと塾)

・伝統文化活動に取組む子ども ・賛同団体

◎ ふるさと塾フェスティバル (子どもたちの発表の場) ※県1箇所開催

◎ ふるさと塾活動賞 (顕彰) ※平成24年度で終了

◎ 指導者研修 (指導者の資質向上) ※各地区の実態や課題に応じてプログラム作成

・指導者研修会 (指導者全体への支援) ※全体研修、ワークショップ、情報交換など

・出前講座 (団体への個別支援) ※継承の仕組みづくりへの助言やコーディネート

◎ 市町村総合交付金「山形の宝育成事業 (ふるさと塾)」(市町村への支援)

◎ ふるさと塾アーカイブス (記録保存・周知)

・文化財の保存活用の推進 ・観光交流の促進

山形の宝の継承

子どもの郷土愛の醸成、社会力の育成

地域コミュニティの活性化

地域青少年ボランティア活動推進事業

一現状一

○県内の地域青少年ボランティアサークル活動、特に高校生ボランティアは、学校の枠を越えた地域単位の主体的な活動(山形方式)として30年を超える歴史があり、全国的にも評価は高い。

○少子化に伴うサークル会員数の減少、市町村における職員減を伴う人事異動により支援、指導できる大人がいなくなる等、活動が停滞し、休止・解散に追い込まれるサークルが増えている。

→地域青少年ボランティアサークル活動への動機付け、指導者の技能向上や情報交換の場の設定など、日常的な支援が必要

○平成20年に県内の公立高等学校(全日制)の2年生すべてを対象に実施したアンケート結果より

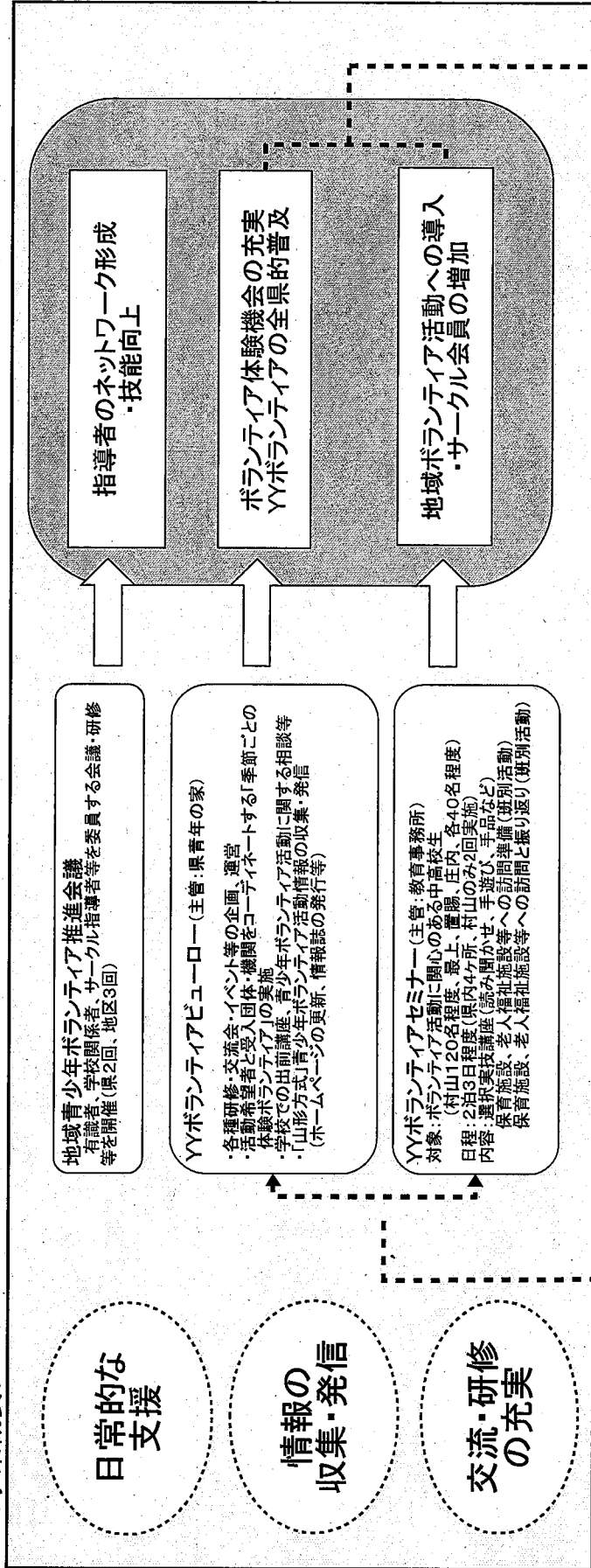
・「YYボランティア」の名称は約7割の生徒が知っているが、活動内容を知っている生徒は1割しかない。

→「山形方式」の地域青少年ボランティア活動への理解を促進するための情報の収集・発信が必要

・約半数の生徒は、「機会があればボランティア活動に参加してみたい」と考えている。そのうち、ボランティアを「自分にとって有益なこと」としてとらえている生徒の割合は、『やってみよう! YYボランティア』への参加者が4人に1人であつたのに対し、不参加者は10人に1人とどまっている。

→自ららの成長を実感できるようなボランティア体験の機会としての交流・研修の充実が必要

<事業概要>



連携・協力 (講座講師、指導者、活動受入等)

山形青年会議

次世代青年サークル活動へ発展

※YYボランティアOB・OGが立ち上げた青年サークル
ひだまり(山形市)、ヤングサーモンズ(鮭川村)、
インスパイア(戸沢村)、はいどらんじあ(新庄市)

人とのかかわりによる青少年の社会力の向上

山形県青年交流事業

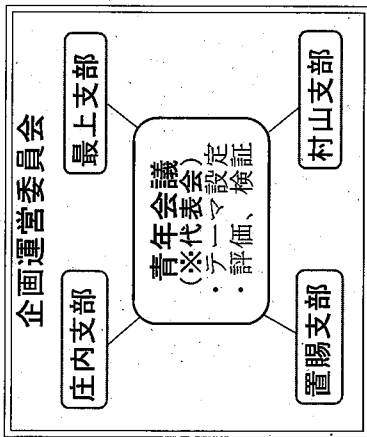
目指すリーダー像

地域の課題に対して主体的に活動し、地域の仲間及び市町村と協働して「まちづくり」を進めることのできる人材

今後の展開

青年活動の内容が深化するよう継続して支援し、市町村（地元）における青年活動の果たす役割（地域課題対応など）の確立を目指す。将来的には、市町村による事業展開となるよう関係者及び市町村と調整していく。

平成21年度～平成23年度（第1段階）
人的ネットワークの構築（仲間づくり）



企画・実施

青年交流会（各地区、全県）

H21
(52名)
全県1回

H22
(205名)
全県2回

H23
(260名)
4地区、全県各1回

廃校活用
MAP作成

各地区で
イベント

成果

- 県レベルの実践に結びつけるリーダーの誕生
- 地域・団体を越えた青年同士のつながりや活動エリアが拡大
- 青年同士の絆の深まりにより他団体事業への応援・参加
- 市町村の青年交流への機運向上

課題

- 新たなリーダーの育成
- 市町村等との連携の強化
- 地域課題の解決を図る実践

新たなリーダー育成

- ・ メンバーの入れ替え

連携の強化

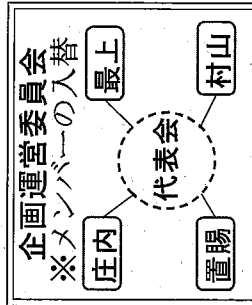
- ・ 市町村との協働による課題解決
- ・ 委員推薦市町村の増加
- ・ 他事業の青年活動団体との連携

実践内容の深化

- ・ イベントだけではなく地域や行政が求める地域課題への取り組み

平成24年度～平成26年度（第2段階）
継続・深化に向けた取り組み

青年会議
※ 企画運営委員会
を卒業した青年
助言・指導



企画・実施

青年交流会（4地区、全県）

【予定額 1,900千円】
キャラバン隊、大学コンソーシアム、市町村などからの参加を促し、連携を深める

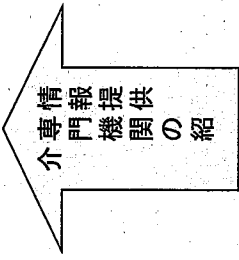
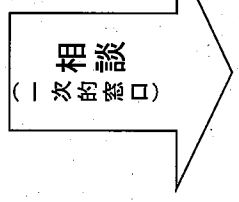
学びあい地域活性化推進プロジェクト《新規》

【予定額 2,000千円】
市町村から提示の地域課題を青年の発想力、行動力で解決する活動モデルの開発

他者とかかわりや様々な体験

「社会的ひきこもり」状態にある青年

本人の状態	混乱期	やや安定期	安定期	ための初期	試しの時期 (動き出し)
本人の気持ち	部屋から出ない、会話がなくなる、など	ひきこもっているが、混乱は少ない。	家族のコミュニケーションが少しずつ回復	「何かしようかな」とほのめかすが実行には至らない。	適度な対人交流や外出、自分なりの社会参加が可能
本人の気持ち	どうしたらいいかわからない、やり場のない気持ち。	落ち着いているが、焦りと不安を抱えている。	信頼できる人となら話をしたいと思う。	何かしたいが、自信が持てず不安で一杯。	試行錯誤で行動を起しつつ、様子をうかがう。
家族の気持ち	「何とかしなければ」と焦り、苛立つ。	焦り、苛立ちが逆効果であること、理解できなくなる。	気持ちにゆとりが生まれ、ほっとする時間が増える。	再び焦りが出始めるが周囲の支えを得て、本人を見守り通せる。	つい欲が出て、本人の行動に一喜一憂しがち。親自身も自分の楽しみを見出せる。



自立支援センター 巢立ち
(山形県精神保健福祉センター内)

山形県青年の家
(県教育委員会)

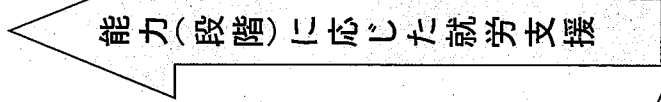
学校

保健所

リースペース、支援NPO団体等
不登校・ひきこもりの居場所提供
親の会開催など

若者地域サポートステーション
(高工労働観光部 雇用対策課)

関係機関・団体との連携・ネットワーク化



就労

就学
高校・大学・短大
専門学校・予備校

社会参加ができる青年

若者自立支援事業

プロジェクトYY交流会の開催

「居場所」に通いながら社会参加が進んだ青年等で実行委員会を編成し、企画・運営

日程 1泊2日(年2回)

場所 県内の青少年教育施設等

対象 県内の社会的ひきこもり青年と支援者を含む約40名

内容 レクリエーション活動や食事作りなど